ID[注1]	231110	公開ﾚﾍﾞﾙ[注1]	A	保管形式[注1]	紙･電子	保管場所[注1]		前回ID	111103

報告書名称/調査名称	令和４年度 白神山地自然環境保全地域植生調査 /自然環境保全基礎調査（特定植物群落調査）	発行年月/報告年月	2023年 5月
		資料形式[注2]	報告書

調査機関	環境省　東北地方環境事務所	委託機関	（一財）自然環境研究センター

調査開始年	1978年	調査期間	2022年 8月 ～ 2022年 10月				
調査頻度[注2]	10年 1 回	調査時期[注2]	夏 秋 ―				
ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ計画	2022年7月 策定	区分[注2]	ⅡB	大区分[注2]	1	小区分[注2]	(1)

調査箇所・範囲[注3]

☑ 核心地域　☑ 緩衝地域　☑ 周辺地域

☑ GPS等の位置データあり

※位置情報は希少種情報を含むため非公開

調査手法

【1978年】第2回自然環境保全基礎調査（環境庁）
・特定植物群落調査を実施。

【1984～1986年】第3回自然環境保全基礎調査（環境庁）
・特定植物群落調査を実施。

【1997～1998年】第5回自然環境保全基礎調査（環境庁）
・特定植物群落調査を実施。

【2000年】「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」（環境庁）全国5,471箇所のうち、青森県182箇所、秋田県223箇所が特定植物群落に選定。

【2011年】「平成23年度白神山地自然環境保全地域植生調査業務」（環境省）において、白神山地に係る特定植物群落23箇所を抽出し、うち16箇所を追跡調査。
また、特定植物群落に指定されていない場所で、今後植生調査を継続していくべきと判断される場所を「特殊立地植物群落」と定義。4箇所（7群落）を選定。

【2022年】「令和4年度白神山地自然環境保全地域植生調査業務」（環境省）において、平成23年度（2011年）に調査した16箇所のうち、6箇所（6群落）を追跡調査。また、近年確認されるようになったニホンジカの食害に対する特定植物群落の脆弱性も調査した。
※「白神山地のフキユキノシタの群生」は、優先度が低いことから令和4年度の調査からは除外した。

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

◎白神山地における特定植物群落では、これまで自然環境保全基礎調査の一環として「追跡調査」による現地調査が実施されてきた。今回の調査では、従来の追跡調査の実施に加え、長期的な経年変化をとらえるための定量的な調査方法を新たに実施した。

＜調査手法＞
［74 赤石川のブナ林］は「令和3年度白神山地ニホンジカ対策業務」で考案された「ブナ林スポットセンサス調査実施マニュアル植生調査編」に準じた調査を行い、他の５群落では、追跡調査と定量的調査を行った。

追跡調査・・・・特定植物群落調査票（追跡調査）と植生調査票による調査。
定量的調査・・・従来の追跡調査の実施に加えて、長期的な経年変化をとらえるため調査対象群落の特性に応じた調査を実施。群落内でシカの可能性のある食痕や糞などの痕跡等も記録。

＜工作物の設置＞
長期間に渡る経年変化を捕捉可能とするために、群落の立地条件に応じて杭もしくは測量鋲を設置した。

【調査箇所（6群落）】
74赤石川のブナ林
76白神岳のネズコ－ヒバ
157笹内川のオニシオガマの群生
171白神山地のトガクシショウマの群生
177白神山地のネズコ林
178白神山地のコアニチドリ－キンコウカ群落

8

環境省東北地方環境事務所　西目屋自然保護官事務所
〒０３６-１４１１　青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田６１-１
TEL:０１７２－８５－２６２２　　FAX:０１７２－８５－２６３５

≪原本（データ）の帰属について≫

注1）「ＩＤ」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2）ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3）該当する項目の□をクリックし、チェックを入れる。

備　考

◎調査結果のとりまとめ方法について
・過去の調査結果との比較を行い、変化状況について考察を行った。
・前回の追跡調査（2011（平成23）年度）で実施された箇所との比較を行った（一部の群落を除く）。ただし、2011（平成23）年度の調査は秋期の実施であり、被度等の計測に不適であることから植生調査が実施されていない。そのため、更に過去の追跡調査まで遡り、植生調査の結果を掲載した。

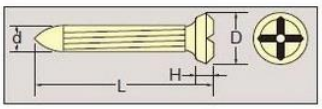
◎８月の大雨と調査日程の延期等について
・2022（令和４）年８月３日の大雨の発生に伴い、白神山地の各地において河川の氾濫、車道の通行止めや登山道の崩壊等が発生した。更に、８月３日以降も断続的に雨天が続いたため、調査に支障が発生した。

表1　特定植物群落の現地調査の概要

対象番号	名称	調査日程	調査概要
74	赤石川のブナ林	2022年10月6-8日 ※6日は移動のみ	・ブナ林スポットセンサス調査実施マニュアルに基づく調査を実施。 ・群落内で3地点を選定して調査を実施し、方形区固定のために杭を設置。 ⇒草本層の植被率は70-85%、低木層の植被率は20-65%であり、痕跡もなく、シカの被害は生じていないものと考えられた。
76	白神岳のネズコ-ヒバ	2022年8月7日	・植生調査を実施。方形区固定のために杭を設置。 ・方形区内で毎木調査を実施。 ⇒群落構成に著しい変化なし。 ⇒ヒバの更新状況は良好。ネズコは岩場などの険しい環境に生育し、詳細な生育状況の把握が困難。
157	笹内川のオニシオガマの群生	2022年10月14日	・個体数と個体サイズ計測、個体位置の記録等を実施。 ・6箇所の方形区を設定して植生調査を実施。 ⇒斜面崩壊により群落が縮小。 ⇒シカの可能性のある食痕を確認したが、個体数は減少せず。 ⇒林道整備に伴い一部の個体が土砂によって埋没。
171	白神山地の トガクシショウマの群生	2022年10月9日	・個体数計測を実施。 ・5箇所の方形区を設定して植生調査を実施し、固定のための金属ペグを設置。 ・ウワバミソウで食痕サンプルを採取。 ⇒群落構成に著しい変化なし。個体数も減少していない。 ⇒食痕分析の結果、シカ・カモシカの識別はできなかった。
177	白神山地のネズコ林	2022年10月12-13日 ※12日は移動のみ	・過去の調査と異なる場所（標高が30-50m程度低い地点）で調査を実施。 ・植生調査と稚樹数の調査を実施。 ⇒植生調査の結果、過去の調査と場所が異なるものの、群落構成にある程度の共通点がみられた。 ⇒稚樹数は多く、更新状況は良好と思われる。
178	白神山地のコアニチドリ-キンコウカ群落	2022年8月6日	・植生調査を実施。方形区固定のために測量鋲を設置。 ・個体数の計測と個体位置の記録を実施。 ⇒面積、群落構成とも著しい変化なし。水害による影響は軽微。

【使用した工作物】

杭　タイプ１
（6.8cm×6.8cm×62cm）



D×d×L×H(mm)
＝9×5×43×3

測量鋲

杭　タイプ２
（4.5cm×4.5cm×45cm）

備　考

◎調査のまとめと今後の対策について

６箇所の特定植物群落での調査の結果、「157笹内川のオニシオガマの群生」において面積の縮小が確認された。その要因は斜面の崩壊であり、2022（令和４）年８月３日以降の大雨が原因であると考えられる。今年度の調査では食痕の確認に加えて、林道整備に伴い土砂が堆積し、一部の個体の埋没が確認された。現時点では斜面崩壊以外の要因により個体数が大きく減少する状況は確認されていないが、今後の群落の衰退が懸念される状況である。それ以外の群落の状況は概ね良好であり、現時点ではシカによる影響が懸念される状況にはないと考えられる。

追跡調査は概ね10年間隔の実施となっているが、上記のような食痕の確認状況や、シカの分布域の拡大に合わせて、モニタリングの頻度を再検討することが望ましい。特定植物群落の存続を脅かす要因はシカだけではなく、林道の整備、水害や斜面崩壊、植生遷移といった要因も考えられる。群落の状況に合わせて、必要な調査と対策を行うことが望ましい。

表２　特定植物群落の調査結果と脆弱性の評価

対照番号		名　　称	脆弱性	モニタリング頻度	調査・対策項目			
					生育状況調査	痕跡調査	シカ生息確認調査	シカ確認後の対策
青森県	74	赤石川のブナ林	2	やや低	○		○	
	75	白神岳高山植物群落	4	やや高	○		○	
	76	白神岳のネズコ-ヒバ	2	やや低	○	○		
	108	白神岳の露頭植物群落	2	やや低	○	現存確認の上で検討		
	183	白神岳のセンジュガンピ群落	4	やや高	○		○	
	110	青鹿岳のハイマツ群落	3	中	○		○	
	157	笹内川のオニシオガマの群生	5	高	○		○	○
	158	吉ケ峰のツガルフジの群生	4	やや高	○	○		
	159	白神山地のフキユキノシタの群生	2	やや低	○	滝川流域：痕跡の確認 赤石川流域：現存確認の上で検討		
	171	白神山地のトガクシショウマの群生	2	やや低	○	○		
	172	白神山地のリシリシノブ	4	高	○		○ ※静御殿周辺につきまとめて実施	○ ※静御殿周辺につきまとめて実施
	173	白神山地のアオモリマンテマ	4		○			
	174	白神山地のエゾハナシノブ	4		○			
	175	白神山地のシコタンソウ	4		○			
	176	白神山地のミヤマアズマギク	5		○			
	177	白神山地のネズコ林	2	やや低	○	○		
	178	白神山地のコアニチドリ-キンコウカ群落	1	低	○			
	179	白神山地のツガルミセバヤ群落	2	やや低	○	○		
	180	白神山地のウスユキソウ群落	1	低	○			
	181	白神山地のコアニチドリ群落	2	やや低	○	○		
	182	白神山地のユキワリソウ群落	1	低	○			
秋田県	51	小岳のハイマツ群落	3	中	○	現存確認の上で検討		
	52	粕毛川源流のブナ林	2	やや低	○		○	

表３　特定植物群落の選定基準

特定植物群落選定基準	
A	原生林もしくはそれに近い自然林（特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること）
B	国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
D	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が 典型的なもの（特に湿原についてはもれのないように注意すること。）
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの（武蔵野の雑木林、阿蘇の山地草原、各地の社寺林。特に郷土景観を代表する二次林や二次草原についてはもれの無いよう注意すること）
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群（種の多様性の高い群落、貴重種の生息地となっている群落等）